

Press Release

2008-02-19 No.08-01

曙ブレーキ、北米生産拠点の再編に関するお知らせ

曙ブレーキ工業株式会社（代表取締役社長：信元久隆 本店：東京都中央区 本社：埼玉県羽生市）は、グローバルベースでの「低コスト Tier-2 ブレーキサプライヤー」を目指し、経営資源の集中と有効活用による企業体質の強化を図っております。北米事業においても、2006 年に生産拠点の集約及び北米統括会社の本社機能をミシガン州からケンタッキー州へ移転、2007 年には北米統括会社への資本参加を中心とした伊藤忠グループとの業務提携を行うなど、北米における経営環境の激変に対処してまいりました。今回、その一環として、北米事業における生産拠点を現在の 3 拠点から 2 拠点に集約することを決定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

具体的には現在、アケボノ ブレーキ スプリングフィールド プラント Akebono Brake, Springfield Plant（正式名「アムテック ブレーキAmtec Brake L.L.C.」ケンタッキー州）で生産している補修用ブレーキパッド及び、エコロジーの観点から展開しているリビルトキャリパー製品などを、同じケンタッキー州にある アケボノ ブレーキ グラスゴー プラント Akebono Brake, Glasgow Plant（正式名「エマック ブレーキAmak Brake L.L.C.」）へ本年秋を目処に生産を移管いたします。移管後、本年末を目処として Akebono Brake, Springfield Plant を閉鎖いたします。この閉鎖により、北米における生産拠点は アケボノ ブレーキ Akebono Brake, Elizabethtown Plant（正式名「アムブレーキ コーポレーションAmbrake Corporation」ケンタッキー州）と Akebono Brake, Glasgow Plant の 2 拠点に集約されます。

この移管による合理化効果は固定費の削減などにより年間 250 万米ドル以上を見込んでおり、主として補修用ブレーキパッドのコスト競争力強化による利益創出とあわせて、さらなる受注拡大も目指します。また、この移管を受け入れるために Akebono Brake, Glasgow Plant では工場の拡張を計画しており、その投資額は約 700 万米ドルを予定しています。Akebono Brake, Springfield Plant の土地建物については売却する方向で進めてまいりますが、今回の移管に伴い 400～450 万米ドルの特別損失を 2009 年 3 月期において計上することになると見込んでおり、2008 年 3

月期に与える影響は軽微と判断しております。

なお、Akebono Brake, Springfield Plant の従業員約180名はAkebono Brake, Glasgow Plant または Akebono Brake, Elizabethtown Plant での受け入れ、もしくは退社する選択肢があります。今後個別に面談をし、決定してまいります。

北米自動車産業はこれまでにない激しい変化の中であり、当社グループが熾烈な競争下で勝ち残っていくためには、徹底的なコストダウンを図り、拡販基盤を構築していく必要があります。当社北米事業はこれまでの20年間の成功をベースに、さらなる飛躍と発展を実現するために、今後もケンタッキー州の2拠点を中心とした生産効率の向上を継続的に推進するなど、グループ一丸となって新たな課題に挑戦してまいります。